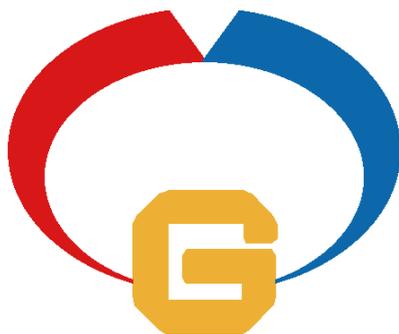


令和元年度 事業報告書

学校法人 後藤学園



【学園目標】

学びの中に楽しさを、厳しさの中に喜びを、
知識・技術と心の幸福な出会いの実現する授業を、
まこと 信の教育の道として進みます。

目 次

I 法人の概要

1. 沿革	3
2. 設置する学校等の所在地	4
3. 役員の概要	4
4. 評議員の概要	4
5. 理事会・評議員会・常務会の開催状況	5～ 6
6. 学園を取り巻く環境	7～ 9
7. 広報活動	10～ 12
8. その他	13～ 22

II 事業の概要

1. 入学定員及び学生数	23
2. 教職員数	24

III 学校別事業報告

1. 専門学校武蔵野ファッションカレッジ
2. 武蔵野調理師専門学校
3. 武蔵野栄養専門学校
4. 武蔵丘短期大学

IV 財務の概要

I 法人の概要

学校法人後藤学園の歴史は、洋裁の技術者養成という社会的要請のもと昭和 22 年に設立された武蔵野ドレスメーカー女子学院（現 専門学校武蔵野ファッションカレッジ）にさかのぼることができる。その後、昭和 43 年に武蔵野調理師学校（現 武蔵野調理師専門学校）を、昭和 45 年に武蔵野栄養専門学校を相次いで設立し、「衣」「食」という実生活に直接関わりある専門家の養成を行い、社会に有為な人材を数多く輩出し続けてきた。

さらに、社会全体の健康志向の高まりに即応し、「健康」と「スポーツ」をテーマとした健康栄養専攻と健康体育専攻（現 健康スポーツ専攻）からなる武蔵丘短期大学を平成 3 年に開学し、現在は健康マネジメント専攻を加え 3 専攻体制として幅広い分野で活躍する人材を社会に送り出している。

また、職業教育水準のさらなる向上を企図した「職業実践専門課程」（文部科学大臣認定）が平成 26 年度よりスタートしたことから、本学園は平成 27 年度までに 3 専門学校 5 学科のすべてにおいて同課程の認定を得ている。専門学校武蔵野ファッションカレッジ・武蔵野調理師専門学校の 2 校は、文部科学省事業として実施された「職業実践専門課程における分野横断的な第三者評価」を平成 28 年度に受審し、それぞれ適正な運営を行っているとの認定を受けた。武蔵野栄養専門学校においても、私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を 2 回受審（平成 26 年度、令和元年度）して、専門学校教育の質保証に積極的に取り組んでいる。

令和 2 年 4 月から始まった「高等教育の修学支援新制度（いわゆる高等教育無償化）」では、設置する 1 短大 3 専門学校のすべてが対象機関として文部科学省の確認を受けており、経済的な理由で学びを中断することがないよう支援を行っているところである。

本学園は、社会で活躍する即戦力を養成すべく、体感・体験・体得を目途とする「身体で覚えた技術は一生を貫く」という教育理念のもと実学を重視し、「優れたプロは優れた人格を有する」ことから人格教育に力を注いできた。また、昨今の社会情勢を鑑み、教育の底流にある人間教育、人格を育てる教育について学園を挙げて取り組んでおり、徳育を重視し、情操豊かな人材の育成と専門教育という、国民生活・文化の向上に貢献する有為な人材育成に努めている。

1. 沿革

昭和22年	6月	東京都板橋区に「武蔵野ドレスメーカー女子学院」を設立。
昭和26年	9月	学校法人の認可を受け、「学校法人後藤学園 武蔵野ドレスメーカー女子学院」となる。
昭和29年	2月	「武蔵野クッキングスクール」設立。
昭和43年	4月	「武蔵野調理師学校」を設立。 厚生大臣、東京都知事認可、調理師養成施設となる。
昭和45年	4月	「武蔵野栄養専門学校」を設立。 厚生大臣、東京都知事認可、栄養士養成施設となる。
昭和50年	9月	武蔵野ドレスメーカー女子学院を「武蔵野服飾美術学校」に校名変更。
昭和51年	10月	専修学校法施行を機に、校名を「武蔵野服飾美術専門学校」、「武蔵野調理師専門学校」と変更。「武蔵野栄養専門学校」とあわせ、3校が専修学校として東京都知事認可となる。
昭和52年	4月	東京都板橋区徳丸に学生寮建設。
平成2年	10月	埼玉県比企郡吉見町に「後藤学園総合グラウンド」完成。
平成3年	4月	埼玉県比企郡吉見町に「武蔵丘短期大学」を開学。
平成7年	4月	武蔵野調理師専門学校、高度調理経営科（2年制）新設。
平成17年	4月	武蔵野服飾美術専門学校を「専門学校武蔵野ファッションカレッジ」に校名変更。
平成20年	4月	武蔵野調理師専門学校、ダブルプログラム科（2年制）新設。
平成23年	4月	武蔵丘短期大学開学20周年。
平成23年	9月	学校法人後藤学園設立60周年。
平成24年	4月	武蔵丘短期大学、健康生活学科（健康栄養専攻・健康スポーツ専攻）に新たに健康マネジメント専攻を開設。
平成26年	4月	武蔵野調理師専門学校高度調理経営科及び武蔵野栄養専門学校栄養科が、文部科学大臣認定「職業実践専門課程」となる。
平成27年	4月	専門学校武蔵野ファッションカレッジ2学科及び武蔵野調理師専門学校ダブルプログラム科が、「職業実践専門課程」として文部科学大臣の認定を受ける
平成29年	3月	「人格教育委員会」が“後藤学園の教育目標～「人格教育」への認識と取組”を発刊。
令和元年	9月	高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）の対象機関として、専門学校武蔵野ファッションカレッジ・武蔵野調理師専門学校・武蔵野栄養専門学校・武蔵丘短期大学が文部科学省より確認を受ける。

2. 設置する学校等の所在地

【法人事務局、専門学校武蔵野ファッションカレッジ、武蔵野調理師専門学校、武蔵野栄養専門学校】

〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-12-5

【武蔵丘短期大学】

〒355-0154 埼玉県比企郡吉見町南吉見111-1

3. 役員の概要〈令和2年3月31日現在〉

【理事】 定員 11人 現員 11人

理事長	後藤 人基	(学校法人後藤学園 学園長)
理事	川合 武司	(武蔵丘短期大学 学長)
理事	福島 正八	(武蔵野調理師専門学校 校長)
理事	片桐 芳子	(専門学校武蔵野ファッションカレッジ 校長)
理事	久保 淳	(武蔵野栄養専門学校 校長)
理事	玉木 啓一	(武蔵丘短期大学 副学長)
理事	岩井 秀明	(前 武蔵野栄養専門学校 校長)
理事	太田 忠一	(大阪国際大学 名誉教授)
理事	根岸 成直	(前 武蔵丘短期大学 事務局長)
理事	福本 修也	(福本総合法律事務所 弁護士)
理事	三井 祐二	(元 学校法人後藤学園 スチューデントサポート部 部長)

※ 選任根拠条文・五十音順

【監事】 定員 2人 現員 2人

監事	峠 修治	(峠修治税理士事務所 税理士)
監事	若井 英之	(若井会計事務所 税理士)

※ 選任根拠条文・五十音順

4. 評議員の概要〈令和2年3月31日現在〉

【評議員】 定員 24人 現員 24人

後藤 人基	青木 一夫	飯尾 哲司	上村 紀夫	大野 勝生
神原 晃	久保 淳	四方 聡	杉山 仁志	玉木 啓一
深田 由美子	雅楽川 典義	大野 強	小倉 展伸	小林 浩
藤澤 弘之	古本 舞	森 志麻乃	深山 英孝	三井 祐二
森本 嘉彦	岩井 秀明	片桐 芳子	平田 憲巳	※ 選任根拠条文・五十音順

5. 理事会・評議員会・常務会の開催状況

(1) 令和元年度理事会の開催状況は以下の通りである。

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況	
	定員	現員 (a)		実出席者数 (b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数		
理事会	11人	10人	第1回	令和元年5月30日 15:08～18:11	10人	100.0%	0人	2/2
			第2回	令和元年6月26日 13:30～13:38	10人	100.0%	0人	2/2
			第3回	令和元年6月26日 14:30～18:50	10人	100.0%	0人	2/2
	11人	11人	第4回	令和元年9月26日 15:00～17:39	10人	90.9%	1人	2/2
			第5回	令和元年11月28日 15:15～19:55	10人	90.9%	0人	2/2
			第6回	令和2年2月2日 15:00～17:14	11人	100.0%	0人	2/2
			第7回	令和2年3月26日 15:20～19:20	11人	100.0%	0人	1/2

(2) 令和元年度評議員会の開催状況は以下の通りである。

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況	
	定員	現員 (a)		実出席者数 (b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数		
評議員会	24人	23人	第1回	令和元年5月30日 13:28～13:36	21人	91.3%	1人	2/2
			第2回	令和元年5月30日 18:15～19:00	21人	91.3%	1人	2/2
			第3回	令和元年6月26日 14:00～14:24	20人	86.9%	3人	2/2
	24人	24人	第4回	令和元年9月26日 13:30～14:24	20人	83.3%	3人	2/2
			第5回	令和元年11月28日 13:30～15:02	21人	87.5%	3人	2/2
			第6回	令和2年3月26日 13:30～15:00	22人	91.6%	1人	1/2

(3) 令和元年度常務会の開催状況は以下の通りである。

区分	開催日現在の状況	開催年月日 開催時間		出席者数等	
	現員(a)			出席者数 (b)	出席率 (b/a)
常務会	7人	第1回	令和元年5月20日 13:28~16:33	7人	100.0%
		第2回	令和元年9月19日 14:33~17:20	7人	100.0%
		第3回	令和元年11月21日 14:00~17:33	7人	100.0%
		第4回	令和2年1月24日 書面審議	7人	100.0%
		第5回	令和2年3月13日 14:30~19:50	6人	85.7%
			令和2年3月16日 11:00~12:53	7人	100.0%

6. 学園を取り巻く環境

(1) 教育環境変化への対応について

①高等教育の修学支援新制度（高等教育の無償化）について

「人生 100 年時代構想会議」（平成 29 年 9 月内閣官房により設置）での議論内容の一部が「新しい経済政策パッケージ」（平成 29 年 12 月閣議決定）に反映され、人づくり革命基本構想として高等教育の無償化の実現に向けて議論が進められてきた。その後、令和元年 5 月 17 日に「大学等における修学の支援に関する法律」が公布され、高等教育の修学支援新制度（高等教育の無償化）が令和 2 年 4 月からスタートすることとなった。消費税率引き上げによる財源を活用することで、所要額は約 7600 億円を見込んでおり、従前の給付型奨学金制度の所要額 87 億円（平成 30 年度）と比べても前例がない規模での予算措置となった。

同制度は、真に支援が必要な低所得者世帯の者に対し、その修学に関わる経済的負担を軽減することにより、子どもを安心して生み育てることができる環境の整備を図り、もって我が国における急速な少子化の進展への対処に寄与することを目的としている。支援対象者は、住民税非課税世帯及び準ずる世帯の学生であり、授業料及び入学金の減免制度の創設、給付型の奨学金の支給の拡充が行われる。

大学・短大・高等専門学校・専門学校が同制度の対象校となるには、機関要件（複数名の外部理事を任命している、経営基盤や収容定員充足率が安定している etc）を満たす必要がある。本学園では令和元年 6・7 月にかけて申請作業を執り行い、結果、9 月 20 日に 1 短大 3 専門学校のすべてが文部科学省より機関要件の確認を受けることができた。

全国の大学・短期大学では 1085 校中 1054 校が対象校（97.1%）となっているが、専門学校では 2725 校中 1701 校（62.4%）、東京都内だと 405 校中 193 校（47.7%）に留まっている。機関要件の確認申請は毎年行う必要があるため、選ばれる専門学校であり続けるために今後も機関要件を満たしていく必要がある。

②新型コロナウイルスへの対応について（令和 2 年 3 月 31 日まで）

令和 2 年 2 月 17 日付「新型コロナウイルスに関する注意喚起」を公式サイトに掲載し、感染予防のための行動を学生・教職員に対して促した。3 月 2 日の定例連絡会では卒業式を各校学内で簡略化した形式で開催する旨を決定し、当日は保護者・来賓は出席せず短時間で卒業証書を授与することとした。4 月の入学式についても学内での短縮開催を検討していたが、3 月下旬に出された都道府県からの自粛要請に従い、式典そのものを中止する判断を行った。

(2) 財務について

①「予算編成方針」の策定及び予算委員会の運営について

令和2年度当初予算の策定にあたって、令和元年11月の時点では令和元年度の事業計画として広報部と各校が協議して設定した募集目標960人の達成を前提とした予算申請を依頼したが、令和2年2月の時点で達成が困難と判断されたため、予算申請額から武蔵野調理師専門学校で40人、武蔵野栄養専門学校で20人分の予算減額調整を行った。

平成28年度以降行ってきた予算申請額の前年比5%減の上限は設定せずに、予算委員会において、各部署から予算の増減内容についての報告をお願いすることとして、各部署内での予算調整を依頼した。各部署からの報告により、委員会参加者で予算内容を共有することができた。

翌年度の予算申請にあたっては、学園の経営状況はもちろん、広報部をはじめ、各部署の意見を取り入れながら、予算編成方針を作成するよう取り組みたい。

②五ヶ年計画の更新について

平成28年度から令和2年度までの五ヶ年計画は令和2年度からの中期目標設定にあたり、計画の終了を待たずに中期計画に移行することとなった。計画当初に見込んでいた学生生徒数から大幅に乖離したことにより、目標としていた収支均衡は達成できなかったが、毎年予算の上限を設けて各部署で予算調整をしてもらうことで、一定の支出見直し効果はあったものとする。

新たな中期計画においては収支均衡に必要な募集人数を目標に掲げ、各校が目標達成に向けた施策に取り組んでおり、全学一致で目標を早期達成できるようにしたい。

(3) 近未来プロジェクトの推進について

～耐震補強工事及び大規模修繕計画への取り組み

学園の永続的発展、次代の学園像構築のためには、学園内外の課題への適切な対処が求められる。外部環境の変化や老朽化が進み法令順守の面からも問題のある池袋キャンパスの施設・設備面への対処も強く求められてきた。

池袋キャンパスについては、整備計画の策定に向けたグランドデザインの構想、新号館の収容設備プランの構想、募集定員の考察・適正規模の算定等を具体化すべき時期と考え、近未来プロジェクトとして池袋3校の施設設備の老朽化への対処策を鋭意検討してきたが、現段階において建て替え等の抜本的解決策が各種の事情から現実的ではないと判断されることとなった。

今後は、既存の建物の耐震補強工事による安全性の確保と建物設備の延命化が喫緊の課題であると考え。今後の方向性としては、インフラ面の見直しを含むリノベーションへと舵を切ることとなった。これまでは、耐震補強に先がけて3号館の建て替え工事についても検討中であったが、前面道路の制約上早期実施は見合わせざるを得ない状況となったことから、各館の耐震補強工事の全体プランに合わせて方向性を模索したい。そのため、3号館は耐震診断を実施した。

併せて、学生生徒の募集状況に陰りが見えていることから、学生募集に資する攻める修繕として大規模修繕計画に取り組んでいる。短期大学を含めた後藤学園傘下4校の大規模修繕を、令和元年度から3年間で総額4億円を目途に取り組む方針となった。各校別に施設設備不備事項一覧を作成し、安全性、教育上の必要性等の区分と実施時期についての優先度を基準に取り組みを開始している。

7. 広報活動

(1) 社会的傾向および学生・生徒募集について

①高等教育機関への進学傾向

大学の志願者数は過去5年で初めて減少傾向。安全志向の高まりから一般入試での出願やセンター入試での出願を控える傾向が強くなり、AO・推薦での出願が伸びた。今後、総合型選抜(旧AO入試)での出願が増えると思込まれるため、高校の進路授業が今までよりも前倒しになる可能性がある。志願者数は減っているものの、入学者ベースでは微増の様相。

(2) 広報活動における課題について

①オンラインコンテンツの拡充

新型コロナウイルス感染症の影響もあって、令和元年度末より体験イベントが開催できない状況。校内ガイダンスや会場説明会も当面開催が危ぶまれることから、WEB媒体からの資料請求者獲得を強化するとともに、全校オンラインのコンテンツを充実させていくことが急務。在校生を活用したコンテンツも検討したい。

また、令和2年4月学園ホームページ全面リニューアルに向けた作業を実施した。

②既存接触者へのフォロー体制の拡充

これまでに資料請求・来校してくれた高校生(入学検討者)に対してのフォローを強化。SNSの発信やDM送付など学校情報を広く発信するとともに、オンラインコンテンツへ流入させることで出願へ結びつける。

外訪員による高校訪問も効率化を図り、内勤作業日を設定しこれらの業務にあたるようにする。

(3) 学園の特色を活かした募集活動

今後各校の魅力を再認識すべく、入学者アンケートや在校生インタビューを実施し、どこに魅力を感じて入学してくれたのかを深く明らかにしたうえで、伝えるべき魅力を定め、それを軸に体験入学の設定やメディアの選定を見直し効率の改善を進める。入学者アンケートについては、対策室で検討を重ね作成済みであり、実施が待たれるところ。

①来校者獲得のための総接触者増加を目指す。

来校につながっていないガイダンスやメディアを精査。効率性を高める。

②アンケートの見直し

体験入学参加者アンケートの内容を見直し、体験入学の在り方について検証。改善すべき点は即座に取り入れ、リピーターの増加と出願歩留まりアップを図る。若手スタッフのアイデアを採用する環境づくりも必要。

(4) 各校との連携強化について

前述したとおり、広報対策室を軸に各校と連携を図っていくが、まだ実践には至っていない。学校によっては募集に関する委員会等を設置し、広報部との連携を図りつつ積極的な取り組みを行った。

(5) 卒業生ネットワークの構築について

広報部として卒業生の取材がメインとなっているが、昨年度はほとんど活動していない状況であった。各校HPに卒業生へ情報提供を求める旨のメッセージを掲載。数件の情報提供にとどまるが確実に反応を得られており、さらなる充実を図りたい。

令和2年度には卒業生向けサイトのドメイン名を取得し、様々なコンテンツを構築後に公開する予定であり、卒業生が情報を書き込めるような掲示板も設置したいと考えている。その上で取材活動も再開する予定。

8. その他

(1) 働き方改革関連法への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」（平成 30 年 7 月 6 日公布）が成立し、①時間外労働の上限規制（平成 31 年 4 月 1 日施行）、②年次有給休暇の確実な取得（平成 31 年 4 月 1 日施行）、③正規・非正規労働者間の不合理な待遇差禁止（令和 2 年 4 月 1 日施行）などへの対応が求められることとなった。

①については、法律の上限規制範囲内である三六協定を職員代表と締結して対応済みである。②については、有給休暇の取得希望日について教職員に事前意見聴取を行い、予定通りに取得できていない教職員に勧奨を行うなどすることで、最終的には全教職員が年間 5 日以上の有給休暇を取得することができた。なお、直近 3 年間の有給取得率は「平成 29 年度 39.8%、平成 30 年度 41.3%、令和元年度 58.1%」となっており、有休の確実な取得が進展している。部署ごとの令和元年度取得率は以下の通りである。

(出典:厚生労働省)

$$\text{取得率} = \frac{\text{算定期間中の取得日数計}}{\text{算定期間中の付与日数計(*)}} \times 100(\%)$$

- * ①算定期間中の付与日数計には繰越分は含まない。
- ②算定期間中に新規の付与日数が発生しない場合は算定期間初日の直前に付与された日数とする。

令和元年度

所属	部署	人数 (a)	当年付与 日数(b)	取得日数 (c)	平均 取得日数 (c/a)	有給休暇 取得率 (c/b*100)	5日以上	
							取得人数	取得率
ファッション	全体	8	138	58	7.3	42.0%	8	100.0%
調理	教務	24	448	270	11.3	60.3%	24	100.0%
	実習	45	768	681	15.1	88.7%	45	100.0%
	全体	69	1216	951	13.8	78.2%	69	100.0%
栄養	全体	32	561	272.5	8.5	48.6%	31	100.0%
事務局	全体	33	625	296.5	9.0	47.4%	33	100.0%
短大	全体	41	712	311	7.6	43.7%	41	100.0%
後藤学園	全体	183	3252	1889	10.3	58.1%	182	100.0%

※栄養の5日以上未取得者1名は育児休暇を取得中のため取得率に含んでいない。

③については、厚生労働省の「同一労働同一賃金ガイドライン」に則って、正職員と短時間労働者・有期雇用労働者との間に不合理な格差がないかチェックを行った。その結果、扶養手当・住宅手当については、短時間労働者・有期雇用労働者にも支給した方がより合理的な取り扱いになることから、理事会（令和 2 年 3 月 26 日）で就

業規則（短時間労働者・有期雇用労働者向け）を改正して対応を行った。

（２）施設設備について

①校舎の耐震化について

池袋キャンパスの２号館・３号館・５号館については旧耐震基準での建築物であり、防災面・安全面から見て耐震化は急務である。２号館・５号館は既に耐震診断を終え、現在は耐震補強工事に向けた基本設計を行っている最中であり、３号館は令和元年度に耐震診断を行った。令和２年度にはそれらの結果を踏まえて学園全体での耐震化計画を策定する予定である。

②大規模修繕および設備投資等について

平成 31 年 3 月の理事会で令和元年度から令和 3 年度の 3 年間は施設設備費（固定資産購入・修繕費）を増額して改修・補修を行うことが議決されたことを受け、令和元年度はその 1 年目として大規模修繕にとりかかった。平成 30 年度に作成した施設設備不備事項一覧に従い、武蔵野調理師専門学校および武蔵野栄養専門学校の校舎である 1 号館・2 号館・5 号館の外壁補修工事を実施し、各校舎で必要な塗装工事・改修工事等を行う等、老朽化した施設に対する補修工事を順調に進めている。また、短大においては外壁の調査を実施し、令和 2 年度に外壁補修工事を行うこととなった。

専門学校 3 校における高額な設備投資として、令和元年度はマイクロソフト社が提供する OS である Windows 7 のサポート終了となることから対象となるパソコンを全台 Windows 10 へと入れ替えたことが挙げられる。また、公益財団法人東京都私学財団による助成金である「私立専修学校教育環境整備費助成事業」を活用して武蔵野調理師専門学校の特徴的な実習室である「一人一台の実習室」の IH 調理器全台 46 台を入れ替え、その他に 2 実習室のカメラ・モニター等を含めた AV システムを一新する等、学生満足度向上に向けた教育環境改善への設備投資を行った。助成率は 39.27% に留まったが約 784 万円の助成金を受けることができた。

武蔵丘短期大学においては栄養士養成施設の指導調査に際し、必要な機器備品の整備を行った。また、教育効果を高めるためのプロジェクター交換や「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）」の共同研究充実を踏まえた解析ソフトの購入等を行った。

その他、池袋キャンパスにおける施設設備に関する修繕・物品購入においては法人事務局総務部が窓口となり対応することが多く、日常的な修繕を含めると令和元年度 1 年間で総務部への依頼は前年度からの持ち越しも含めて 394 件であった。

③施設貸出について

専門学校の校舎は池袋駅から近く、学習塾等による模擬試験での借用依頼が多く、一般教室のみの使用であることから、学園としては負担が少なく収入を得られる方法の一つとなっており、翌年度の体験入学等の日程を決定する段階で、他の企画に影響がない程度に事前予約を受け付けることとしている。また、他にはない大きな実習室と収容人数の多さから業界団体のコンクール等で施設利用の依頼が寄せられている。

また、東京都には製菓衛生試験・ふぐ調理師試験・クリーニング師試験での会場として貸し出した。例年、調理師試験の会場としても貸し出しているが、令和元年度は受験者数が少なく借用依頼がなかった。豊島区には夏休みの子ども料理教室等での会場として、複数の教職員の協力のもと、施設を貸し出している。施設貸出以外にも炊き出し等の協力や料理教室での講師依頼があり、社会貢献活動の一環としても取り組んでいる。

その他、テレビ撮影やコンクール等での貸出の際は協力企業として学園名もしくは学校名を公表してくれる場合がある。現在は教育機関として立場を重視し、広告効果を求めて学園から積極的に声を掛けているわけではなく、依頼に応じている程度だが、今後大きな依頼に繋がるように一つ一つの依頼に対して真摯に協力している。

(3) 学生支援への取り組みについて

近年、発達障害や心の問題を抱える学生が増加傾向にあり、学校教育においてもメンタル面でのサポートが不可欠となったことから、池袋キャンパスで週2回・短大で週1回カウンセラーに来校いただき学生のメンタルヘルスケアに取り組んできた。

特に池袋の専門学校においては授業中だと生徒の相談が少ないため、担任が学生対応についてカウンセラーと打ち合わせを行うコンサルテーションを推奨している。また、学生の昼休み時間に予約がない場合はカウンセラーが主体的に図書室に足を運び、多数の学生と交流する時間を持つことで、カウンセラー来校の周知と、学生生活の実態把握に努めた。学校の特色の1つである担任制を補完するための教育相談体制の構築にも注力し、専門学校武蔵野ファッションカレッジで年4回、武蔵野調理師専門学校で年3回、学生の抱える問題をテーマにカウンセラーを交えた会議を開催し、組織的な対応の在り方について検討を重ねてきた。

一方で、これらの施策を推進しても、学生の退学率は増加傾向にあることから、学生が持つ多様な事情に対応すべく退学の要因分析から始め、一層の対応策を練る必要があることから、教職員の研修を例年実施している。7月に若手教職員を対象とした「カウンセリングマインドを生かした生徒理解と対応」をテーマに研修を実施し、問題を抱える生徒への初期対応のポイントについて学ぶ時間を持った。また、3月に

はメンタルヘルスケアの担当者を対象とした「最近の学生の傾向とその対応のポイント」というテーマで研修を開催し、社会的な傾向を学ぶだけでなく、各校の現状に合わせた質疑応答の場を持ち、より具体的な対応について考える時間を持つことができた。研修は蓄積されてこそ効果が出るものであるため、今後も継続して行っていく。

(4) 学生寮の運営について

学園が所有する学生寮は1棟あり、本学園の専門学校の生徒のみが入寮することができる。近年の傾向として新入寮生の半数が1年課程(調理師科)の生徒であり、翌年度の在寮生数を確保することが困難となっているが、途中退寮を除けば進級者全員が令和2年度の在寮を希望する結果となった。在学期間が2年と短く、引越しの労力を考えると、明確な理由がない限り翌年度も在寮する傾向があることは確かだが、寮の生活については比較的満足していると考えられる。

学生寮では例年、消防訓練や各種イベントを以下のとおり行っている。また、これまでも親元を離れた入寮生たちに防犯意識を持ってもらうことを目的として、警察による講話、東京都消費生活総合センターによる講座を実施していたが、令和元年度にはそれらに加えて地域貢献活動として寮生で構成される防犯ボランティア団体「ムサシノ ambitious」を発足し、高島平警察署と連携して活動を行った。

<学生寮での各種イベント>

平成31年4月8日(月)	入寮式 東京都消費生活総合センターによる出張講座 寮監・寮生役員によるオリエンテーション
平成31年4月20日(土)	消防訓練(総合訓練) (有)出口消火器の協力 高島平警察署による防犯に関する講話 歓迎会 各校教職員も参加
令和元年6月2日(日)	[地域]町内会による赤徳公園清掃
令和元年6月17日(月)	[地域]防犯ボランティア団体「ムサシノ ambitious」 発足式 高島平警察署生活安全課長代理が出席
令和元年7月18日(木)	教職員による部屋点検および夏休み前の諸注意
令和元年7月20日(土)	寮生32名による寮内大掃除とバーベキュー
令和元年9月15日(日)	[地域]徳丸北野神社秋季大祭の神輿担ぎ
令和元年10月20日(日)	[地域]「ムサシノ ambitious」盗難防止活動
令和元年11月10日(日)	[地域]板橋農業まつりの神輿担ぎ

(5) 図書室での取り組みについて

①基本データ

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入室者	H30	700	741	1,754	1,261	35	1,298	1,201	1,311	1,423	2,205	401	94	12,424
	R1	365	700	1,141	1,196	36	1,201	1,181	956	1,301	1,571	456	30	10,134
貸出冊	H30	364	221	372	314	6	179	261	239	226	174	85	10	2,451
	R1	263	202	337	372	28	211	246	211	286	127	75	18	2,376
問合せ	H30	200	179	289	205	26	58	200	284	192	251	85	36	2,005
	R1	115	165	301	176	26	141	152	146	127	175	71	14	1,609
P C利用	H30	74	14	45	35	1	21	17	154	72	179	10	0	622
	R1	8	12	40	82	0	15	170	143	88	187	16	2	763

蔵書は約 14,400 冊ある。令和元年度に購入した図書は 504 冊で合計 122 万円の取り扱い金額であり、寄贈図書は 34 冊であった。図書リクエストは 15 件。年に 1 回 3 月に実施している図書資産実査では今年度の 2 冊の不明図書があった。

パソコン 7 台、蔵書検索システム用端末 1 台を設置しており、Wi-Fi も接続できる（同時接続可能人数 50 名）環境となっている。コピー・印刷複合機が 1 台あり、コピー・プリントの利用枚数は合計 3,189 枚（¥48,770-）であった。

図書室の広報活動として、携帯用・掲示用に図書室カレンダーを作成しており、開室スケジュール・テーマ展示の案内・おすすめ図書の紹介を行っている。図書室 HP でも同様の情報を公開している。

②授業時間を使用した図書室利用について

新入生を対象とした説明会を総務部職員の協力により実施しており、その内容は図書室利用案内、本の所在調査と貸出演習、調べもの演習である。他にもホームルーム等で調べものをする時間として図書室を活用する場合がある（詳細は以下の表のとおり）。

期 間	内容（回数）	利用学校、クラス
4月	ショップ企画（2回）	ファッション マスター科
6月～7月	就職先情報収集（2回）	調理 高度調理経営科
6月～7月	「エスポワール」参考資料収集（3回）	調理 ダブルプログラム科
9月	ショー制作の企画（2回）	ファッション マスター科
9月～11月	賞味会向け情報収集	調理 高度調理経営科
9月～1月	「クリエイションワーク」資料収集。	ファッション AP科

	(14回。1回目に文献探索ガイダンスを実施。)	
10月	就職活動情報の収集(1回)	ファッション スタイリング科
12月	美術関連資料の収集(1回)	ファッション 外部講師依頼
12月～1月	学園祭向け情報収集(13回)	調理 全学科
学祭準備期間	学園祭向け情報収集	調理、栄養
2月	ポートフォリオ制作準備(3回)	ファッション マスター科
通年	研究テーマに関する情報収集	栄養 研究室

③展示企画

各種企画展を実施。その他、新しく受け入れた書籍を別置して月1回紹介している(ただし、8月・3月は除く)。

期 間	テーマ名	内 容
4/8～4/27	貸出ベスト20冊(2018年度)	昨年度貸出ベスト20の書籍を紹介。
5/7～5/31	皇室・王室の衣裳 ～今と昔を知る～	日本の皇室と世界の王室の衣食に関する書籍を紹介。
6/3～6/29	リフレッシュのすすめ	心身のリフレッシュに役立つ書籍を紹介。ストレッチやアロマセラピーの体験コーナーを用意。
7/3～8/29	夏のおすすめ、あつ～い本	「あつい」をキーワードに様々な書籍の紹介。
9/2～9/30	防災力:知ろう!備えよう!身につけよう!	自然災害の知識、災害への備え、被災地ボランティアについてか書かれている書籍の紹介。「防災かるた」も併せて展示。
10/1～10/31	料理レシピ本大賞 inJapan2019	料理レシピ本大賞各賞書籍の紹介。
11/1～11/29	冬じたく	冬に備える衣食についての書籍を紹介。
12/2～1/14	私の1冊	学生と教員からおすすめ書籍を推薦者のコメントと合わせて紹介。
2/7～3/11	みんなの仕事を応援します!	職業、就職、仕事小説の紹介。

④その他

令和元年度より入れ替えた図書管理システムの運用が始まり、入室状況やレファレンスサービスの管理も新たに可能となって、作業効率が上がったといえる。図書室ウェブサイトや蔵書検索システム（OPAC）もリニューアルされたが、自宅でスマートフォンからアクセスしてきた学生からの問い合わせも目立つようになり、使い勝手がよくなったと実感している。また年間運用費は、－4万円の経費削減を実行できた。

職員の研修として、第21回図書館総合展の「新書とYAがであう：ノンフィクションが読書と学びの扉を開く」「学校図書館をどう魅せるか」「大学の授業のICT化と図書館の役割」を図書室司書が受講している。

蔵書数の増加に伴った書架の狭隘化対策に、『学校法人後藤学園図書室資料管理規程』（除却）に則って図書748冊の除却と、電動書棚脇にあるドア含む壁一式の撤去で、配架スペースの確保を行った。併せて、情報・資料探索しやすいよう、参考図書の配架見直しと閲覧スペースのレイアウト変更を令和2年度に向けて行った。しかしながら、今後も余剰スペースが見込まれないため、書架スペースの捻出に継続的に取り組んでいきたいと考えている。

(6) 委員会活動について

令和元年度の委員会活動日程は以下のとおりである。

（ただし、学校単独での委員会については『Ⅲ. 学校別事業報告』にて記載）

<ハラスメント防止委員会>

委員長 箕輪雅春（専門学校武蔵野ファッションカレッジ 教員）

委員数 10名

開催日時 令和元年 5月 8日（水） 16時30分 参加者10名

令和元年12月12日（木） 16時30分 参加者10名

<衛生委員会>

委員長 上村紀夫（法人事務局長 兼 総務部長）

委員数 7名

開催日時 令和元年 6月 4日（火） 16時30分 参加者6名

令和元年 9月 3日（木） 16時30分 参加者6名

令和2年 1月14日（火） 16時30分 参加者6名

令和2年 3月10日（火） 16時30分 参加者6名

<防火防災管理委員会>

委員長	上村紀夫（法人事務局長）		
委員数	13名		
開催日時	令和元年 6月12日（水）	16時30分	参加者 12名
	令和元年 7月 9日（火）	16時30分	参加者 12名
	令和元年12月 2日（火）	16時30分	参加者 10名
	令和2年 3月 2日（月）	15時	参加者 13名

<人格教育委員会>

委員長	後藤人基（理事長）		
委員数	13名		
開催日時	令和元年 4月23日（火）	14時	参加者 12名
	令和元年 7月23日（火）	14時	参加者 11名
	令和元年 9月17日（火）	14時	参加者 11名
	令和元年11月26日（火）	14時	参加者 11名

(7) 主な行事日程について

平成30年 4月4日（木）	（会場）東松山市民文化センター
武蔵丘短期大学「平成31年度 入学式」	
平成31年 4月9日（火）	（会場）東京芸術劇場
専門学校3校による「平成31年度 合同入学式」	
令和元年 6月1日（土）	（会場）後藤学園総合グラウンド
武蔵丘短期大学「スポーツフェスティバル2019」	
令和元年 9月30日（月）	（会場）ホテル椿山荘東京
武蔵野調理師専門学校「調理師科夜間部 第64期 卒業式」	
令和元年10月5日（土）	（会場）後藤学園総合グラウンド
専門学校3校による「令和元年度 総合体育祭」	
令和元年11月9日（土）10日（日）	（会場）武蔵丘短期大学校舎
武蔵丘短期大学「第29回 武蔵丘祭」	
令和2年2月1日（土）2日（日）	（会場）専門学校3校校舎
専門学校3校による「総合学園祭～2020 卒業作品展～」	
令和2年3月12日（木）	（会場）校舎 ※ホテルメトロポリタンから変更
専門学校武蔵野ファッションカレッジ「令和元年度 卒業式」	
令和2年3月10日（火）	（会場）校舎 ※ホテルメトロポリタンから変更

武蔵野栄養専門学校「第49期生 卒業式」

令和2年3月12日（木） （会場）校舎 ※ホテル椿山荘東京から変更

武蔵野調理師専門学校

「調理師科昼間部52期 卒業証書授与式」

「高度調理経営科24期 卒業証書授与式」

「ダブルプログラム科11期 卒業証書授与式」

令和2年3月18日（水） （会場）校舎 ※川越プリンスホテルから変更

武蔵丘短期大学「第28回 卒業証書・学位授与式」

※令和2年3月に挙行した卒業式等は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4校とも会場を変更しそれぞれの校舎で行った。

II 事業の概要

* 数値は小数第2位以下を切り捨てて表記

1. 入学定員及び学生数

学校	学科・専攻	修業 年限	入学 定員	入学 者数	充足率	収容 定員	令和1年度 在籍者数			充足率	
							計	男	女		
専門学校 武蔵野 ファッション カレッジ	アパレル プロフェッショナル科	2年	30	29	96.6%	60	46	4	42	70.0%	
	ファッション スタイリング科	2年	60	39	65.0%	120	72	13	59	60.0%	
	ファッション マスター科	1年	10	2	20.0%	10	2	1	1	20.0%	
	小計		100	70	70.0%	190	120	18	102	63.1%	
武蔵野 調理師 専門学校	昼間部	1年	240	198	82.5%	240	199	149	50	82.9%	
	調理師科	専門 課程	1年 6か月	-	-	-	40	18	9	9	45.0%
		夜間部 高等 課程	1年 6か月	-	-	-	40	3	2	1	7.5%
	高度調理経営科	2年	200	154	77.0%	400	319	254	65	79.7%	
	ダブルプログラム科	2年	200	105	52.5%	400	206	43	163	51.5%	
	小計		640	457	71.4%	1200	745	457	288	66.5%	
武蔵野栄養 専門学校	栄養科	2年	240	166	69.1%	480	335	56	279	69.7%	
	小計		240	166	69.1%	480	335	56	279	69.7%	
武蔵丘 短期大学	健康栄養専攻	2年	80	63	78.8%	160	121	13	108	75.6%	
	健康スポーツ専攻	2年	80	45	56.3%	160	117	39	78	73.1%	
	健康マネジメント専攻	2年	40	9	22.5%	80	22	1	21	27.5%	
	小計		200	117	58.5%	400	260	53	207	65.0%	
合計			1180	810	68.6%	2190	1460	584	876	66.6%	

* 令和元年5月1日現在の数値とし、学校基本調査（文部科学省）および学校法人基礎調査（日本私立学校振興・共済事業団）の数値と一致する。

* 調理師科夜間部は令和元年度より募集停止しており、上表では定員に含めないものとする。

2. 教職員数

	常勤教員等					非常勤 教員	事務 職員	在籍者	在籍者数÷ 常勤教員等
	校長 学長	教員	専門学校 助手	専門学校 教務職員	計				
法人事務局	-	-	-	-	-	-	17	-	-
専門学校 武蔵野 ファッション カレッジ	1	6	-	1	8	20	1	120	15.0
武蔵野調理師 専門学校	1	45	6	17	69	59	7	745	10.7
武蔵野栄養 専門学校	1	19	12	-	32	29	8	335	10.4
武蔵丘 短期大学	1	26	-	-	27	31	14	260	9.6
合計	4	95	18	18	134	139	46	1460	10.8

- * 令和元年5月1日の教員数を記載している。
- * 法人事務局の事務職員数には、常勤役員（1名）は含まない。また、三専門学校の事務職員16名（ファ1・調理7・栄養8）は、学校法人会計人件費計上の都合により、法人事務局の事務職員を割り当てている。
- * 専門学校武蔵野ファッションカレッジの教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定している。
- * 武蔵野調理師専門学校の教員及び助手（調理実習）の人数は、調理師養成施設指導要領が定める要件を満たす者を算定している。なお教務職員（学校法人後藤学園管理規程第4条第1項第1号で定める職員）とは、同校において教員・助手ではない者のことである。
- * 武蔵野栄養専門学校の教員及び助手の人数は、栄養士法施行規則及び栄養士養成施設指導要領が定める要件を満たす者を算定している。
- * 武蔵丘短期大学の教職員数は、事務職員と教授を兼任している1名を「教員」として計上しており、また学校法人基礎調査（日本私立学校振興・共済事業団）では報告していない事務職員を計上しているため、同調査の報告数とは異なる。教員の内訳は、副学長1名・教授9名・准教授4名・講師7名・助教1名・助手4名。

Ⅲ 学校別事業報告

1. 専門学校武蔵野ファッションカレッジ
2. 武蔵野調理師専門学校
3. 武蔵野栄養専門学校
4. 武蔵丘短期大学